

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0190201319), 法人名 (有限会社 おいらーく), 事業所名 (グループホーム 夢 ひまわりユニット), 所在地 (札幌市東区東苗穂13条2丁目24-35), 自己評価作成日 (2021. 3. 1), 評価結果市町村受理日 (令和3年5月6日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○春から夏にかけて庭に野菜を植え、手入れ、収穫を行い食している。土に触れ、野菜を育てることで楽しみができ、食べることで育て上げたことを実感する。車いすの方もプランターで栽培し、毎朝水やりを行っている。○雪が降るまでの間、庭に出てシャボン玉を飛ばしたり、歌やお茶を楽しんでいる。○できる動作はお手伝いも含め各々で行っていただき、ご本人のペースに合わせた対応を行っている。○入居者に対してスピーチロックしている職員がいたら、指摘し合い言動を改善するよう取り組んでいる。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL (https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0190201319-00&ServiceCd=320)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和3年3月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、バス停から近くコンビニや大型スーパー等がある住宅地に位置している。2階建ての1階には、デイサービスと地域交流の場として開放している多目的室を設けている。現在コロナ禍により外出や面会の制約があるが、職員は感染予防対策の徹底に努め、盆踊りでは屋台風におつまみセットを用意し、庭の花や樹木を眺め、近所の好意で収穫した栗で炊き込みご飯や甘酒を、ハロウィンでは利用者も職員も仮装し、季節行事を楽しんでいる。ユニット合同レクによる「スーパーマーケット夢」を1階で開店し、飲み物やお菓子の袋詰めセット、様々なお弁当を用意し、利用者は選んだ物をカゴに入れ、運動や魚捌き、家事などで支払われる事業所通貨で支払い、フードコートに見立てた所で一緒に昼食を摂り、程良い刺激や気分転換に繋げている。家族からは、運営に関して感謝の言葉が寄せられたり、マスクや花、果物等の差し入れがあり、共に利用者を支えている。緊張感ある中で、職員の支援により日常生活が営まれている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議で周知。事務所に掲示し理念の共有、実践に努めている。	理念を踏まえ「その人らしさを大切に」を事業所目標とし、さらに「笑顔のあふれる毎日」をスローガンに掲げている。全体会議で、それぞれがケアの中で生かされているのかを話し合い、共通認識に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	中学校の職場体験やセタで近所の子供たちとの交流ある。コロナ発生後すべて中止となっている。	地域情報は回覧板で得られ、月2回廃品回収に協力している。近所の方からは野菜の差し入れや好意により住宅の庭にあるサクランボや栗を収穫させて頂き、旬を味わっている。例年来訪の中学校からは、学校の様子をDVDに納め届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議、避難訓練、職場体験にて情報を発信。現在はコロナのため外部との交流はなし。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度の会議にて必ず意見をもらっていた。現在会議は書面形式のため、アンケートを同封し直接意見をいただくことでサービス向上に活かしている。	書面会議としているが、2回程数名の参加の下、スライドでの活動報告、利用者や職員の状況、運営等の報告に対して、意見や質問が出され回答している。議事録を推進委員や家族に郵送し、意見の収集に努めている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者がメールや電話を活用し協力関係を築いている。日頃連携できるよう努めている。	行政とは法人と管理者がそれぞれの分野を担い、協働で運営の向上に取り組んでいる。事故報告書は郵送で、現状報告等は電話やメール、FAXで行い情報を共有している。コロナ禍以前の運営推進会議では、地域包括職員に実情を報告している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて現況確認。拘束か否か会議で取り上げている。内部研修を定期的に行い、拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止への学びは、指針を基に月1回全体会議の中で適正化委員会を開き、外部研修後の伝達研修や内部研修で正しい理解に繋げている。管理者は、利用者の様子を見て、支援方法の確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	受講できた研修を元に会議で周知し現在状況と照らし合わせている。スタッフの言動にも注意をし虐待にならないよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修やテキストから得た知識の共有は行っているが活用できているか判断はできない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が十分な時間を取り家族へ説明し、理解、納得してもらえるよう取り組んでいる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に電話や月に一度のお便り、プランの更新時に状況を伝え、意見や要望をもらっている。	家族には、毎月写真掲載のお便りやケアプラン更新時にプランの原案に写真やメッセージを添えて郵送している。年2回の家族アンケートで収集した意見はすぐ検討し、改善策を講じている。家族からは、コロナ禍に向け労いの言葉やマスク、花、果物の差し入れが得られている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回の面談や全体会議、またはその都度意見や提案を聞き、反映させている。	職員の運営に対しての意見や提案は、業務上や管理者による都度の個人面談で傾聴している。代表者始め法人職員による月1回、朝礼時に運営状況の説明やスローガンの意識付けと年1回、個人面談が行われ、職員は意見や要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談にてスタッフから聞き取り、各々が向上心を持って働けるよう環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会(介護技術講習やケアマネ会議、リーダー会議など)の確保はされていたが、コロナで中止になることが多くあった。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業部ごとの委員会や会議を活用し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と相談し状況確認を行っている。本人が安心できるよう関わりを多く持ち、関係作りに取り組んでいる。事前見学时に丁寧に聞き取りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会や電話にて意見や要望を聞き取り、アセスメントし、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の聞き取りにて見極める努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じ、手伝いに参加していただき、感謝の言葉を伝えている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りや電話時、本人の状況を伝える、または直接話してもらうことで絆を大切にし、本人を支える関係づくりをスタッフのできる範囲で行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの人との関係が途切れないよう電話やペランダからの面会を活用。コロナ発生後外出は庭のみ。	家族とは、窓越しでの面会や電話等でお互いが安心できる支援に努めている。週刊誌の好きな利用者には家族が差し入れし、馴染みの店で買い物希望する利用者には、職員が付き添っている。近所の好意で恒例の栗拾いやサクランボ狩りが行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格や相性を考慮し座席を組んでいる。自由に入居者同士関わっておりスタッフの介入もあり孤立はない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も家族からの相談を受け、状況に応じ支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動や表情、しぐさから本意をくみ取る努力をしている。本人本意の生活になるよう検討している。	利用者とコミュニケーションが取れたり取りづらいたど色々だが、丁寧な思いの汲み取りが行われている。通常と違う場面が見られた場合は、特に注意して状態把握を行い、利用者の満足が高められる取り組みに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	紹介者、担当者、本人、家族など、本人の関係者から聞き取り、センター方式の活用をし、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを通じて現状を職員が共通して把握するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師や看護師、本人、家族等と話し合い現状に即したプランになるよう作成している。	ケアプラン作成時は、事前に把握していた利用者や家族の生活への意向と医療従事者の意見を踏まえ、会議で評価や課題分析を行っている。利用者の本来像に近づける支援目標を設定し、実践に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	システムや連絡メモを活用し、情報共有し、実践やプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師や看護師、飲み込みサポーターや栄養士など柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	おむつサービスや配食サービス、訪問理美容、通院時の介護タクシーなど利用。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と本人、家族が直接話納得した上で支援を行っている。	利用者や家族の意向で利用者全員が協力医による定期的な訪問診療を受けている。専門医への受診は家族が対応し、いずれも健康状態は共有している。訪問看護師による週1回の健康チェックも行われ、利用者のみならず職員の安心も得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一度の訪問看護の他、往診先の看護師へすぐに相談することができ、適切な指示をもらえている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	状況に応じて必要な関わりを持っている。電話やファックス、メールを活用し関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化の指針を家族へ説明。本人、家族の意向に基づき状況変化委に応じた段階的な話し、合意の元対応している。	契約時に重度化や終末期の対応を説明し、同意を得ている。殆どが事業所を終の住処と考えており、意向を受けとめている。状態急変時は、管理者が仲立ちとなり、主治医の所見を段階的に家族に伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	日中は往診先、夜間は当番ナースへ電話をし、すぐに指示を受けることができる。研修に参加していたため、実践に活かしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回あらゆる災害を想定し避難訓練。近所に声掛けし、協力体制を築いている。	6月に地震直後の火災想定避難訓練を行い、2階の利用者は階段を降り駐車場の所有車に一時避難している。10月には、地震後の停電を想定し、車から電力を確保して非常食を用意している。近所には、「自主防災だより」のチラシを配り、口頭で非常時の協力を依頼している。	緊急連絡網に地域住民の登録、法人本部や系列事業所と協力体制の構築等で災害時に備えているが、さらに訓練時における地域住民に役割の説明と家族に避難場所の周知も望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛け、言葉遣いに気を付け、時には指摘し合い見直している。	職員は、法人の経営方針である「スマイルアゲイン」の実践に努め、忙しいときこそ深呼吸して平常心に戻すなど、自身を律して利用者寄り添っている。上司はもとより職員同士でも声をかけ合い、適切なケアの理解に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	できる限り行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを妨げないよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容の他行きの時にヘアメイクやスカーフなどでおしゃれをする機械を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	片付けやテーブル拭きなど一緒に行っている。目でも楽しめるよう彩り、盛り付けの工夫をしている。	週3回、昼食のみ配食事業部から温かい副食が届いている。管理栄養士による献立に沿って調理しているが、その時々でアレンジして提供している。行事食や誕生日は、要望で刺身やちらし寿司などを用意し、食事にメリハリを付けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は医師と相談しながら提供。嚥下状態に合わせてろみも活用している。栄養士が立てた献立表にて調理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は拒否の方もいるが、朝・夕は必ず行っている。除菌に合わせスポンジブラシ対応。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンに合わせて時間誘導。皮膚状態や夜間の入眠状態に合わせて衛生用品を調整している。	排泄状況は、自立排泄や声かけ、見守り、状況により2人介助が必要など多様だが、トイレでの排泄を基本とし、尊厳ある支援に取り組んでいる。衛生用品は、利用者の様態により適切に使い分け改善に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲水提供内容の変化や食物繊維の多い食材の使用、歩行訓練など取り入れ対応。改善されない場合は医師と相談し、服薬調整。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日は決めているが、気分に合わせて入らない日もある。週に2回の入浴は行っている。時々入浴剤を使用し、雰囲気に変化をつけている。	入浴は、午前、午後週2回を基本として同性介助の要望を受けとめ、入浴剤入りの湯船で寛げるよう努めている。足湯にシャワー浴や拒否のときもあるが、無理強いせず状況に合わせて支援している。入浴時は、会話を楽しむなど、コミュニケーションの場となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	こちらから支援の必要な方に関しては、姿勢の保持が難しくなってきたなど状況を見て対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を確認する、薬の変更時内容等を周知するなど服薬に関する変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほうき掃除や下膳など日常の手伝い(役割)の他、定期的な行事に参加し気分転換等履かれている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ発生の為庭以外の外出行事は中止になった。家族とは受診の時のみ。	感染症予防対策として、外出行事は全て自粛しているが、職員の頑張りやで屋内の行事は例年通り実行しており、利用者の五感を刺激している。ほんの少し庭に出て散歩やトマトに水遣り、庭の花や樹木を観賞して季節を感じられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族理解の元預かせてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時に対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、湿度に気を配り、季節に合った飾りつけを行っている。	事業所全体に毎日換気を7回以上、消毒は4回行い、食卓にはアクリル板を設置するなど感染予防の徹底に努めている。廊下に掲示している行事写真は毎月入れ替え、居間では季節の草花を活けたり、読書や新聞を読んだり、季節飾りの貼り絵を皆で作るなど、日常の生活を支えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや3フロアも活用し、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や寝具を入居時に家族が設置。生活の中で自分で動かし、居心地よさを自分で作り出している。	クローゼットが備えられており生活用品が収納でき、調度品は動線に配慮して置かれている。利用者は、誕生日に届いた花を飾ったり、新聞の切り抜き、読書、メモをするなど、自分の時間を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所を覚えられない人にも分かりやすく、「トイレ」と表示し自分で行ける工夫をしたり、各居室に表札代わりに写真を貼り、居室を分かりやすくしている。		